

「第1回タグラグビードリームマッチ 2019」開催

優勝は東海大学ラグビー部のシーゲイルズ！

解体予定の“聖地”秩父宮でラグビーレジェンドOB、現役選手が小学生と交流
先端テクノロジーを活用した新時代のスポーツの楽しみ方、ラグビーの魅力とは？



<優勝チーム>



株式会社ジュピターテレコム(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:井村 公彦、以下 J:COM)は、ラグビーの発展を目的に、3月24日(日)にラグビーの“聖地”こと秩父宮ラグビー場で子どもから大人まで世代を超えたラグビープレーヤーが一堂に会する「第1回タグラグビードリームマッチ」を開催しました。ラグビーワールドカップ2019™の日本開催を9月に控え関心が高まるなか、再開発のため2021年から10年かけて生まれ変わる予定の秩父宮ラグビー場で行った当大会は、優勝を懸けて競うスポーツとしての面白さはもちろん、KDDIの協力により、デジタル革命がもたらす新時代のスポーツの楽しみ方を探る実証実験も行われました。さらに、試合後はレジェンドOBも参加するアフターマッチファンクションで、対戦チームのプレーをたたえ合うラグビー特有の“ノーサイド”精神も子ども達に体験していただきラグビーファミリーの絆がさらに深まった大会となりました。



<ジャパンラグビートップリーグ
「パナソニック ワイルドナイツ」>



<2018年度関東大学リーグ戦王者
「東海大学 シーゲイルズ」>

<大会レポート>

3月24日(日)晴天、小学生から、国内トップレベルのチーム、草ラグビーチーム、レジェンドOBまでラグビーを愛する老若男女が勢ぞろいし、記念すべき「第1回タグラグビードリームマッチ2019」が秩父宮ラグビー場(東京)で開催されました。大会の競技「タグラグビー」とは、腰につけたタグを取ることによってタックルしたとみなし、身体的接触も禁止というルールが特徴で、初心者、年少者にも安心して楽しんでいただけるラグビー競技です。ラグビーは15人制と7人制とありますが、タグラグビーは自由。当大会では5人制で実施されました。大会前の意気込みを招待チームに伺うと、ジャパンラグビートップリーグの「パナソニック ワイルドナイツ」は「本気でやっつけちゃうぞ」と挑発すると、サントリーカップ(小学生のタグラグビー選手権)で全国1,200チームの頂点に立った「八王子市立七国小学校 七国スピリッツラグビー」は、「全チームぶっ飛ばします」と気合満々。さらに、女子セブンズ最高峰サーキットシリーズのコアチーム「横河武蔵野 アルテミスターズ」は、ラグビーを応援するユニット「KAGAJO☆7」のダンスに特別出演するなど、会場を盛り上げました。



■決勝トーナメント第三試合ではIoT ウェアラブルセンサーを着用しての試合が開始

当大会の決勝トーナメントでは、試合映像に加えデータスタジアムが提供するトライ数などの試合情報を、地域情報アプリ「ど・ろーかる」でリアルタイム配信。さらに、多くのトップ選手を輩出する2018年度関東大学リーグ戦王者「東海大学シーゲイルズ」が出演する第三試合では、「Knows」のIoT ウェアラブルセンサーを選手が着用し、「ど・ろーかる」配信画面上に、心拍数などのバイタルデータが加わりました。試合会場の現場に居ながら、より詳細な試合情報をスマートフォンで閲覧しながら楽しむという、5Gを見据えた“ながら”視聴で、普段の観戦では見ることができない付加価値が加わり、観戦者も楽しんでいました。対戦相手の小学生チーム「ひかりきっずくらぶ」のコーチにヒアリングしたところ…

ひかりきっずくらぶコーチ:子どもたちの試合の頑張りがデータとして把握できるので、指導にも役立つ上、子どもたちのモチベーション向上にもつながりますね。



<まるでトッププロの試合を見ているような映像を簡単にリアルタイムに閲覧できる>



<地域情報アプリ「ど・ろーかる」よりキャプチャ>

さらに、試合後にはスポーツを安心して取り組める仕組みづくりとしてIoTウェアラブルセンサーの収集データを大阪大学大学院医学系研究科に送信し、選手にフィードバックする取り組みが行われました。

高畑先生(大阪大学大学院医学系研究科):生体センサーを活用することで、試合中リアルタイムに監督やメディカルチームが選手のコンディションを把握することが可能となり、スポーツの安全性がより向上されます。また、データをもとに試合の戦略にも役立てることが可能です。

レジェンドOB:チーム内で走行距離が低いメンバーに罰ゲームすると決めて、盛り上がっていました。客観的な数値は、ひとつの指標になるので毎試合の体調管理、コンディションを整えるのに役立ちそう。

現役選手(東海大):装着したことによる動きづらさもなく、自分はむしろ付けたいと思っていました。自分の数値を純粋に知りたいし、選手として必要な情報と思っています。今後はそういうもので、選手の価値を見られるようになっていきます。



<IoTウェアラブルセンサーで収集したデータ>



<背中突起がセンサーになっている>

■涙を呑んだチームも…

招待チームの4組目である「八王子市立七国小学校七国スピリッツラグビー」は2018年の「サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権大会」で4度目の優勝を果たし、全国1,200チームの頂点に立った大本命のチーム。ところが東海大学と戦った準決勝では2回の延長戦の末にサドンデスで決着。苦しい戦いで、あと一歩わずかに届きませんでした。跳ね返されてもくじけず、何度も立ち上がる姿に多くの観戦者は感動していました。

七国スピリッツコーチ:今回のチームは全員6年生で男子と女子半々のチームで挑みました。負けることを知らなかった子どもたちが、今回、負けてしまい本当に悔しがっていました。でも、この悔しさがいい経験になったことと思います。また、ラグビーの聖地 秩父宮のピッチに立てたことは本当に素晴らしい経験だったと思います。

小学校の卒業式を終えた春休みの最後のタイミング。中学校ではタグラグビーはないため、これが最後の大会でした。東海大学の選手も声をかけて悔しがる子ども達を励まし、コートの外で一緒に自主練をしている様子が見受けられました。



<決勝トーナメント第四戦の「七国スピリッツ」(黄)>



<対戦で負けた後も東海大ラグビー部と練習をしていた>

■解説やエキシビジョンマッチではレジェンド OB が大活躍

実況解説の部屋では、2003年、2007年のラグビーワールドカップで日本代表の主将を務めた通算48キャップのレジェンド、箕内拓郎さんが解説者を務め、さらに、エキシビジョンではラグビー界のレジェンド OB(平均年齢44歳)のレジェンドチームが、中高生のラグビーを応援するユニット「KAGAJO☆7」と勝負！これには、会場の皆さまも全員ピッチに注目していました。



<レジェンド OB チーム>

<ラグビー応援ユニット「KAGAJO☆7」チーム>



<解説: 箕内拓郎>

■ついに、決勝戦！閉会式&アフターマッチファンクション ラグビー特有の“ノーサイド”精神とは？

ついに迎えた決勝戦。優勝を争うのは予選から勝ち進み、「横河武蔵アルテミ・スターズ」を 11 対 1 で下し、トップリーグの「パナソニック ワイルドナイツ」も 7 対 6 で制した、予選から勝ち進んできた小学生チームの「横浜日野タグラグビークラブ[暁]」と、「東海大学ラグビー部 シーゲイルズ」。両者一歩も譲らない戦いで、勝負は延長戦へもつれ込み、最後の最後でトライを決めて勝利を勝ち取り、大会を制したのは…「東海大学ラグビー部のシーゲイルズ」！試合終了のホイッスルが鳴り、お互いの健闘をたたえ合っがっちり握手。ホイッスルが鳴った瞬間から、センターラインが消えて敵味方の関係ではなくなるのは、ラグビー特有の“ノーサイド”精神です。閉会式では表彰式が開催されました。



優勝チームにはお米が贈呈され、子どもから普段ご飯をどれだけ食べるのか聞かれると、「お昼ご飯は2合食べます」と現役選手たちは笑顔で回答。今回はさらに、IoT ウェアラブルセンサーのデータをもとに、トップスピードを出した選手に贈られる「スピード賞」と、長距離を走っているにも関わらず、心拍数が上がらなかった人に贈られる「スタミナ賞」の授与式も行われました。

▼スピード賞(トップスピードを出した選手) 横浜日野タグラグビークラブ[暁] 時速 20.7 キロ タカノ リオさん

▼スタミナ賞(長距離で心拍数が上がらなかった選手) 横浜日野タグラグビークラブ[暁] 距離 1.7 キロ マエカワ コウキさん



<準優勝チーム>

アフターマッチファンクションではお菓子を食べながら、「大人を本気にさせるほどの実力」と、お互いのプレーを称賛しました。最後には「スリー・チアーズ・フォー・ラグビーファミリー」という掛け声で全員がポーズを決め、ラグビーファミリーの絆を深めるイベントとなりました。



■特別出展！AIコーチング体験も

さらに、試合会場の場外では KDDI 総合研究所が「AI コーチング」ブースを出展。子どもたちが並んで次々参加していました。プロのフォームを AI 学習したカメラが、体験者のパスをプロと比較した改善点をタブレットの画面で確認できる仕組みです。200 人を超える人数が体験しました。

参加した子ども：

- ・パスの投げ方についての具体的なコメントがもらえる
- ・家に居てもスマートフォンやタブレットで簡単に練習できそう



KDDI 研究所：

AI コーチングとは、単眼のカメラ映像のみで指先を含む骨格などの動きやボールを捉え、パスやキャッチなどの基本動作を認識するとともに、理想的なフォームと比較して改善点をアドバイスする技術です。今回のように、子どもたちのスポーツでの活用は、今後の日本スポーツの未来を担っている子どもたちの成長にもつながるシステム活用であると考えております。これからも、未来を描くスポーツ振興に貢献していきたいです。

当日の大会のダイジェスト版は、コミュニティチャンネル「J:COM テレビ」(J:テレ)でも 3 月 30 日(土)に放送予定です。

「ラグビー日本代表オフィシャルサポーター」の J:COM は、地域密着メディアとしてスポーツを通じた地域への貢献を目指すとともに、J:COM ならではの放送・配信などの取り組みを通じ、広くラグビースポーツの魅力を発信していきます。

<取材:レジェンド OB・パナソニック ワイルドナイツ(梶、谷田部)・東海大ラグビー部 シーゲイルズ(中野)選手>

子ども達と触れ合ってみて、いかがでしたか？

今泉 清「楽しかった。大人気のないプレーも出だし、いい刺激でした。」

梶 伊織「みんな上手！！」

谷田部 洸太郎「元気！今までタグラグビーは他でもやってきたけど、その中でも一番上手」

中野 幹「子ども達のプレーする姿勢、表情。改めてスポーツにかかる思いを改めるきっかけとなりました。」

ご自身が小学生の頃は、ラグビーをされていたか？競技を始めたきっかけは？

今泉 清「小1からやっています。よく家で暴れていたんで、親に進められて始めた。ところが週1回の練習だったから全然発散できなくて、結局、家の中でもラグビーボール持って暴れてました(笑)」

梶 伊織「小2からやっていました。兄の影響ですね」

谷田部 洸太郎「高校生から始めました。ラグビー部の顧問に、体が大きかったので「やるべき」と勧められました」

中野 幹「小学生の時はやっておらず、高校の同級生に誘われて始めたのがきっかけでした」

ラグビーW杯が9月に日本で開催。ロシアとの開幕戦まであと180日を切りました

今泉 清「今回はホームだから地元の利を生かせるんじゃないかな。海外だと時差、気候の違いなどコンディション調整が大変だからね」

チーム内の雰囲気に変化などはありますか？

梶 伊織「日本代表の活動で抜けたりするので皆にはW杯第一でやってねという話をしている」

谷田部 洸太郎「ワイルドナイツからも何名か代表入りしているので、W杯でピッチに立ってくれたらうれしい。日本開催というプレッシャーもあると思うので頑張りたい。チーム力も上がるので、いい刺激を貰える」

中野 幹「リーチ主将は東海大出身。監督がリーチさんの話をします。学生時代は最初からスペシャルプレーヤーだった訳ではなく、ひたむきに努力するプレーヤーで、今や日本代表のキャプテンということでお話しくださいます」

日本代表候補の選手へメッセージはありますか？

今泉 清「日本のラグビーをやっていない子ども達に「やってみたい」と思わせるのが務めだよ」

野球、サッカーと比べてマイナーともいわれていますが、ラグビーの素晴らしさを伝えるには？

今泉 清「ラグビーをやっていた人が、観戦して、両サイドに人を連れてくること。ラグビーのルールは難しいとかよく言うけど、ラグビーは簡単。ボールの争奪戦。みんながラグビー親善大使になることが大事。あと、ニュージーランドなどではオールブラックスの大会予定を家のカレンダーにも書き込んでいる。代表戦の日に観戦しないのはあり得ない！スタジアムに連れてこないと。」

梶 伊織「グランドを生で見ていただくことがファンに繋がると思います」

谷田部 洸太郎「野球やサッカーと違って、ルールが難しいところもありますが、今日の試合でもルールが分からなくても感動したと思います。ぜひ、会場に来てくれると嬉しい」

中野 幹「ラグビーはいろんな体格の人にも合ったポジションがあって、誰かのミスを補い合えるので、仲間としてどれだけ結束しているかという見どころがあると思います。敵も含めて仲間という“ノーサイド”の考え方はラグビーだけの文化だと思います」

<大会結果>

予選結果

<予選第一>

チーム名		チーム名	得点
湘南シューティングスター	VS	小柳ライトニングス	win 1 - 8
浦安 Wings	win	はやぶさクラブ	6 - 2
小柳ライトニングス	win	浦安 Wings	7 - 2

<予選第二>

チーム名		チーム名	得点
横浜日野タグラグビークラブ[暁]	win	南白レジェンド	5 - 2
新宿チャレスポスパイダーズ A	VS	KGU ブルー	win 4 - 4
横浜日野タグラグビークラブ[暁]	win	KGU ブルー	7 - 0

<予選第三>

チーム名		チーム名	得点
ひかりきつづくらぶ	win	KGU ラビット	4 - 3
成城ラグビーアカデミーA	VS	ヨコタグ	win 3 - 6
ひかりきつづくらぶ	win	ヨコタグ	4 - 2

<予選第四>

チーム名		チーム名	得点
みなとラグビースクール A	VS	みなとラグビースクール B	win 5 - 6
みなとラグビースクール C	VS	新宿チャレスポスパイダーズ B	win 0 - 8
みなとラグビースクール B	VS	新宿チャレスポスパイダーズ B	win 1 - 6

準々決勝結果

<第一トーナメント>

チーム名		チーム名	得点
パナソニックワイルドナイツ	win	小柳ライトニングス	8 - 7
横浜武蔵野アルテミ・スターズ	VS	横浜日野タグラグビークラブ[暁]	win 1 - 11

<第二トーナメント>

チーム名		チーム名	得点
東海大学 ラグビー部	win	ひかりきつづくらぶ	8 - 6
七国スピリッツ	win	新宿チャレスポスパイダーズ B	20 - 0

準決勝結果

チーム名		チーム名	得点
パナソニックワイルドナイツ	VS	横浜日野タグラグビークラブ[暁]	win 6 - 7
東海大学 ラグビー部	win	七国スピリッツ	6 - 5

決勝結果

チーム名		チーム名	得点
Champion! 東海大学 ラグビー部	VS	横浜日野タグラグビークラブ[暁]	7 - 8

(1) 大会概要

大会名	第1回ラグビーードリームマッチ 2019
開催日時	2019年3月24日(日) 9:30~17:30(予定)
会場	秩父宮ラグビー場(東京都港区北青山2丁目8-35)
主催	株式会社ジュピターテレコム
主管	ラグビーードリームマッチ 2019 実行委員会 (株式会社ジュピターテレコム、KDDI 株式会社)
参加チーム	・小学生のラグビーチーム 16組 (一般募集) ・大会推薦チーム 4組
ゲスト	ラグビー元日本代表(今泉 清、齊藤 祐也、川合 レオ) 7人制ラグビー元日本代表(天野 義久、三宅 敬) KAGAJO☆7
WEBサイト	https://c.myjcom.jp/user/event/jtv-trb.html

(2) アプリ配信

エキシビジョンと、一部の決勝戦で選手に着用いただくウェアラブルセンサーで収集した選手情報は地域情報アプリ「ど・ろーかる」で同時配信しました。

アプリ名	地域情報アプリ『ど・ろーかる』
配信期間	2019年3月24日(日) 12:00
アプリ価格	無料
インストール方法	Android「Google Play ストア」/ iPhone「App Store」にて「ど・ろーかる」で検索 《アプリ詳細、インストールはこちら》 http://c.myjcom.jp/rd/dolocal.html?cid=my_dolocal-004

※配信内容は予告なく変更となる可能性があります ※通信費はお客さまのご負担となります

(3) テレビ放送

「J:COM テレビ」で大会模様の番組『第1回ラグビーードリームマッチ 2019 ダイジェスト』を放送します。



「J:COM テレビ」とは J:COM のネットワークを生かして、“地域発”のコンテンツを“全エリア”へお届けするオリジナルチャンネルです。全国各地のご当地情報や、音楽ライブ、スポーツなどの大型コンテンツはもちろん、ラジオとのコラボレーションなど、さまざまな取り組みを通じて、ケーブルテレビならではの魅力を発信します。

生中継	番組名	『第1回ラグビーードリームマッチ 2019 ダイジェスト』
	放送日時	2019年3月30日(土) 19:00~19:30 [再]4月3日(水) 20:00~、4月6日(土) 17:30~、4月7日(日) 22:30~
	内容	「第1回ラグビーードリームマッチ 2019」の試合映像をセンサー情報と併せて放送
放送チャンネル	J:COM テレビ (愛称 J:テレ)	《チャンネル番号》 札幌・仙台・関東エリア 10ch 関西・福岡・北九州エリア 12ch 下関エリア 111ch 熊本エリア 11ch
視聴方法	J:COM 対応済みの建物にお住まいの方は、どなたでも無料で視聴可能	
実況	矢野 武	
解説	箕内 拓郎	

※番組・放送内容は予告なく変更となる可能性があります